

## レクチャー6 16:20-17:00 (第2 Zoom 会場)

---

# 研修医をバーンアウトから守れ！

○ 松尾貴公（聖路加国際病院・感染症科）

「あんなに頑張っていた研修医の表情が急に暗くなった」「いつも温厚で患者さんや周囲のスタッフからも信頼されていた研修医の態度が急に冷たくなった」

あなたの施設で上記のような研修医はいませんか？研修医が抱える重要な問題の1つとして挙げられるのが「燃え尽き症候群（バーンアウト）」です。

バーンアウトは熱く燃えていたろうそくの灯が、徐々に燃え尽きていく、つまり、人が精神的に疲労した状態を描くために用いられる比喩語ですが、研修医は医学部卒業後、研修医としてのみならず社会人1年目として様々な身体的・精神的ストレスがかかります。日本の報告では約18-33%もの研修医がBurnoutの基準を満たすことが知られています。

本レクチャーでは、バーンアウトに関連する個人的因子・環境因子を理解することにより、皆さんが目の前の研修医がバーンアウトしないようにするにはどのようにすべきかを解説していきます。

---

松尾貴公（聖路加国際病院・感染症科、JACRA 世話人）

2011年長崎大学卒。聖路加国際病院で初期・後期研修後、2014年に内科チーフレジデント。感染症フェローを経て現在 Educational Chief 兼任。臨床・教育・研究それぞれの分野で研鑽中。研修医を含めた医療者のバーンアウト研究に従事し、より良い研修環境の推進に取り組む。